

庄内森とみどりのフェスティバル酒田

10月24日（日）、東北公益文科大学酒田キャンパス内で、庄内森とみどりのフェスティバル実行委員会、庄内地方林業振興協議会が主催する「庄内森とみどりのフェスティバル2010酒田」に参加しました。

24日はくもりの天気ですが10月末としては温かい天候に恵まれました。

この「庄内森とみどりのフェスティバル2010酒田」は昭和63年から行っており、今年で23回を数えました。このフェスティバルは、庄内地域における森林の適正な管理を推進するとともに、再生可能な地域産木材の利用拡大を図るため、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな自然環境の重要性について広く県民にPRするという趣旨です。酒田会場の特徴としては、開校10周年を迎えた東北公益文科大学酒田キャンパス内で大学が主催する公翔祭（文化祭）と合同開催を行い、酒田市民や大学学生等などとの交流の推進を図るものです。

フェスティバルには、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター（5名）、庄内森林管理署、山形県、酒田市、遊佐町、飽海郡内にある森林組合・林業関係者等多数の団体等が出展しました。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターでは、センターが取り組んでいる「朝日庄内プロジェクト」を紹介する「パネル展示」や、朝日生態系保護地域や緑の回廊からわき出ている「清水」やその清水で煎れた「コーヒー」の提供、ネイチャーゲーム「石立」、木の枝等を利用した小木工「モックンづくり」等を実施しました。

パネル展示では、当センターが取り組んでいる活動「朝日庄内プロジェクト」に理解を頂きました。清水の試飲では、用意した4箇所（鳥海山、大湯、大湯池、大湯温泉）の清水を飲んで、どの清水が好きかなど職員に告げてくれるお客様も多く、一番人気は鳥海山から湧き出る「胴腹清水」でした。コーヒーの提供では、緑の募金にご協力を頂き、募金箱に備え付けの小鳥の突然のさえずりに驚くお客様もいました。石立では、四国土佐直伝の石立技術に関心を持つ大学生が多く、全部の石を立てるまで頑張る学生も現れました。酒田警察署の婦警さんに至っては、常日頃の訓練がそうしたのか、数秒で石を立てて見ていた市民の皆さんから大きな拍手がありました。モックンづくり等では、幼児から大人まで人気がありましたが、特におじいちゃんやおばあちゃん達が一生懸命なのはビックリしました。なぜ、一生懸命なのか、こっそり聞いてみたら、お孫さんへのお土産のようでした。木と枝が醸し出す魅力に触れて、参加者好みのアクセサリづくりで奮闘していました。

市民等や大学生の皆さんとふれあい、多くのご意見や感想を頂いた、楽しい1日間となりました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター